

男女共同参画シリーズ その5

DE & Iのトビラ ―知ろう，身近なEquity―

Invitation to DE & I ― Let's realize the equity around us ―

小林 進 武井 遼
KOBAYASHI Susumu TAKEI Ryo

1 はじめに

男女共同参画推進委員会は、日本技術士会の「男女共同参画への取り組み」を広く社会に発信するために2014年より月刊『技術士』の「男女共同参画シリーズ」を担当し、2022年11月号で「シリーズその4」を終えた。シリーズでは男女共同参画の目的や必要性に加え、活躍する女性技術士、イクメン・イクボスなどD&Iを推進する技術士や組織を紹介してきた。これは、当委員会が「企業における男女共同参画推進への協力」を役割のひとつとしていることにある。一方、多様性がうたわれる中、「女性」を特別扱いすることに異論もある。しかしながら、彼女たちは同じ土俵で戦えているのであろうか、ということを考えていただきたい。

近年、社会的な動向により「公平性（E：Equity）」が重視され、D&IからDE & Iに移行し、持続可能な社会の実現を目指すようになったことを受け、本シリーズ「その5」はDE & Iをテーマに掲げた。第1回の本稿では、女性会員に対して実施した技術士試験や日本技術士会の活動への参加に関するアンケート結果（2022年8月実施）を基に、参加機会の「公平性」の支障になっていることと改善提案を述べ、身近なところからDE & Iを推進する気づきの端緒としたい。

2 回答者の属性

20代から70歳以上163名（対象者538名、回収率30.3%）の女性会員の方（図1）から、技術部門（図2）、技術士資格を取得した（目指す）理由、メリット、有用性、また試験を受験する際や、本会の活動（以下、「活動」と記載）に参加するにあたっての支障などについて回答が得られた。

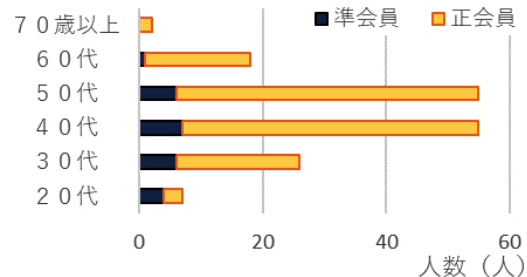


図1 正・準会員別回答者の年齢構成

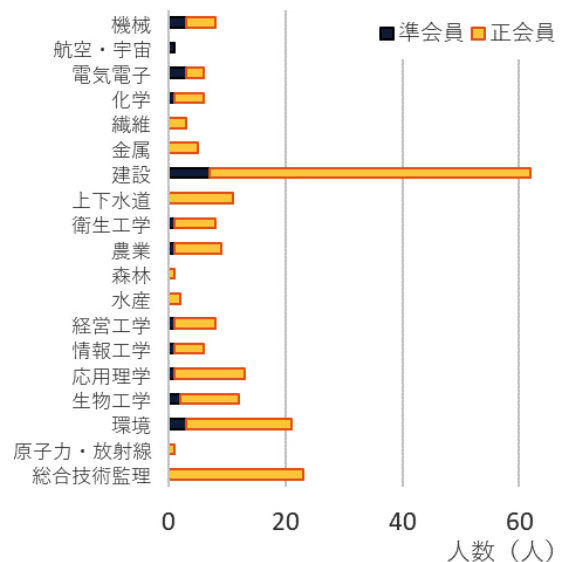


図2 正・準会員別回答者技術部門（複数回答）

3 支障の有無―「公平性」は？

技術士試験を受験するにあたり支障となっていること（支障となったこと）の回答結果から、年代別で目立った傾向としては、20代で「職場の業務が忙しく、業務時間外に受験準備の時間を確保できない」が最も多く、それ以上の年代で徐々に減ってはくるものの、50代まではトップ要因であることが挙げられる。一方、60代以上では「特に支障はない」との回答が多かった。また、各年代とも共通して「周囲に技術士がいないため、技術士についてわからないことが多い」ことを挙げる方が一定割合おり、受験するにあたり情報不足が支障となっていることも分かった。

次に、日本技術士会の活動に参加していない理

由の全体像を図3に示す（選択肢での回答に自由回答を加えテキストマイニングを実施）。

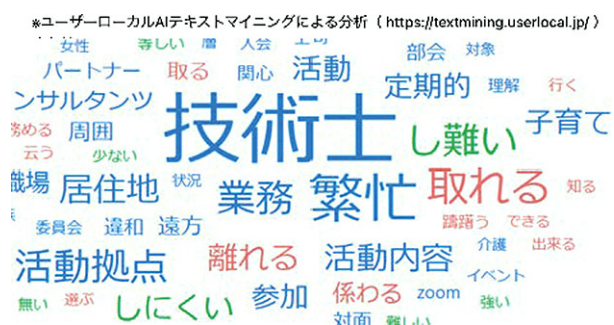


図3 日本技術士会の活動に参加していない理由

年齢階層別では、20代は受験の支障同様に「業務が繁忙で、定期的に職場を離れる時間が取れない」、次いで「女性が少なく参加し難い」割合が高かった。また、その他の自由記載には「きっかけがない」「詳しい活動内容が分からない」など、活動との接点が少ない様子も窺えた。「居住地が遠方のため移動に時間がかかる」といった地理的な課題は、各年代を通じて比較的少なく、コロナ禍でリモート参加できる環境が整備できたことが、解消につながったものと思われる。また「家族の理解が得られない」の回答はゼロだったのに対し、30代から40代で「子育て」を、50代から60代で「介護」を理由に挙げる方が一定程度いることは、男女間での比較を行う必要があるが、女性特有の支障となっている可能性を示唆すると考える。

次に、活動への参加状況の質問に対しては、正・準会員ともに2割以上の方が既に参加していると回答された。参加していない方の今後の参加意思のテキストマイニング分析結果（図4）によると、研修会の受講や交流会参加のほか、委員会や部会・支部の幹事や研修会の講師として参加したいといった積極的な回答も見受けられた。

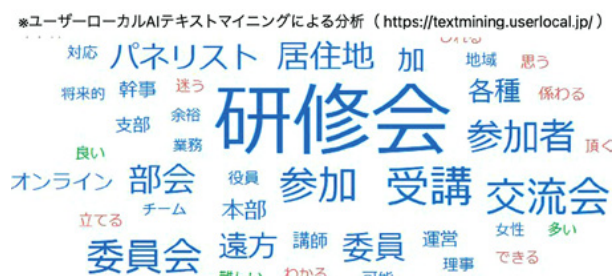


図4 参加していない方が今後参加したいと思う活動

以上より、公平性の確保のため、男性よりも子

育ての負担が大きくなりやすい女性にとって、職場や家庭での支障を解消することが必要である。同時に、我々が年齢や性別に関わらず、技術士資格および活動について広く情報発信（広報活動）を行うことも解決の糸口になると考える。

4 おわりに－DE & I推進への提言

3章で述べたように「活動に参加していない理由」は、業務繁忙など、日頃、男性から聞く声と共通する部分があるものの、子育てや介護など女性で特有と思われるものもあった。また、「委員会の委員や研修会の講師として参加したい」など参加に前向きな意見がある一方、「活動の状況を把握できていない」、「女性が少なく参加し難い」という意見も見受けられた。このことから、少数派である女性には活動状況などの情報が公平に伝わっていないことが考えられる。これを改善することがEquityである。自分達も誰かに誘われ、背中を押されたのが活動に参加したきっかけであり、誰にでも公平にこのような機会が必要と考える。

そこで、当委員会は、本会のDE & I推進のため、男性会員、女性会員の区別なく、公平に部会の幹事、委員会の委員への参加を呼び掛け、誰でも参加しやすい環境構築を各部会や委員会にお願いしたい。また、部会は若手技術者を育成する役割も担っており、男女の委員比率などの数値目標を設定するなど工夫して、誰もが公平に参加できる環境構築を推進していただきたい。

小林 進（こばやし すずむ）

技術士（情報工学／総合技術監理部門）

男女共同参画推進委員会副委員長

神奈川県支部幹事修習技術者支援委員会委員長

e-mail : s_kobayashi@m.ieice.org



武井 遼（たけい りょう）

技術士（経営工学部門）

男女共同参画推進委員会委員

広報委員会委員、経営工学部会 副部長

ADEKA クリーンエイド（株）経営企画部

e-mail : ryo@adeka.co.jp

